

出穂早まる予想！葉色淡い！直ちに生育診断！遅れず穂肥！

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部

7月4日現在の試験研究機関における「はえぬき」の生育は、平年と比べて草丈は長く、茎数は少なく、葉数は多く、葉色は淡くなっています。また、県内全域でも茎数が少なく、葉色が淡い圃場が多く見られます。

「はえぬき」「雪若丸」の出穂は平年より1～3日早まる予想で、すでに穂肥の適期を迎えている圃場が多くなっています。暑い夏を乗り切るには、適正な葉色を維持しイネを消耗させない管理が重要です。直ちに生育診断を行って遅れずに穂肥を実施しましょう。

「はえぬき」の生育（7月4日）

項目	農業総合研究センター（山形市）			水田農業研究所（鶴岡市）		
	調査値	平年値	平年比・差	調査値	平年値	平年比・差
草丈（cm）	61.2	55.6	110 長い	58.2	54.1	108 長い
茎数（本/m ² ）	573	777	74 少ない	563	674	84 少ない
葉数（枚）	10.4	10.0	+0.4 やや多い	9.9	10.4	-0.5 やや少ない
葉色（SPAD）	39.8	42.2	-2.4 淡い	38.2	40.6	-2.4 淡い

当面の技術対策 ～暑い夏に勝つ！～

- ◎イネの茎数や葉色を確認し、生育診断に基づいて遅れずに穂肥を実施する。
- ◎ケイ酸資材（水口施用等）を積極的に施用する。光合成促進、根の伸長促進、耐倒伏性向上、窒素吸収量増加の効果あり。
- ◎全量基肥栽培においても、葉色が極端に低下している場合は、生育診断に基づいた穂肥を実施する。
- ◎中干し終了後は、間断かん水もしくは飽水管理を行って根の伸長を促進する。水のためっぱなしは厳禁。
- ◎畦畔、農道、休耕田等の除草対策を徹底する（7月2日：斑点米カメムシ類注意報発表）。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！